

花口 光〔会計〕



## 「山南ホタルの里連絡協議会」

山南学区の一宮・上阿智地区はホタルの生息する水路が残っていて、地元の小学生を対象にホタルの観察会を毎年開催していたことなどから、1993年に岡山市の「ホタルの里」に指定された。当会は、これを契機に、この良好な自然環境を保全し残して行くため、地域活動を行っていた団体や町内会、公民館運営委員会や地域の有志が中心になって結成された。



ホタルの里の看板

活動内容については1995年から毎年、一宮公園でホタル祭りを開催し、ホタルの保護、保全についての啓発と水路の草刈りや泥さらえなどの保全活動を行っています。

ホタルが多数生息していることから始まった一宮公園でのホタル祭りだったが公園内の水路の自然護岸だった上流部分が改

修工事され、その附帯工事で公園内の三方コンクリートの水路にたまった土砂が浚渫された。三方コンクリートの水路も又土砂が堆積してくればホタルが復活してくると思っていたが上流部が改修されたことから土砂の供給も少なくなり、公園内の水路ではホタルが非常に少なくなってホタル祭りのために他所からホタルを借りて来なければならない状況が続いていた。

このような状況の中でこの水路をかつてのホタルが乱舞する水路に自然修復できないかと模索しているとき、西大寺ライオンズクラブの関係者から2007年が結成50周年に当たるため、ある程度まとまった事業ができるとの話があった。これはチャンスと、この事業で水路にホタルを復活できないかと水量や生き物、地形などの調査を行ったところ、水量が年間を通してほぼ一定であり、数は少ないがゲンジボタルとヘイケボタルが生息していることやホタルの餌になるカワニナが多数生息していることから適切に手を加えればホタルの再生が可能と判断できた。

この調査を基に「ホタルの里の自然修復事業」の計画を西大寺ライオンズクラブに提案をしたところ、西大寺ライオンズクラブの結成50周年事業としてこの事業が承認された。対象の水路は公園内の川幅約2メートル、長さ約100メートルの3面コンクリート貼りの水路で工事は2007年3月から3年をかけて三方コンクリートの水路に堰を設けたり、中州を設けたり、低水路部分を蛇行させるなどの工事を行った。工事に当たっては施工時期をホタルへ影響が少ない3月に行い、生き物を引越しさせるなどの工夫が良かったのか思った以上に順調にホタルが増えてきている。

今年のホタルフォーラム(11月27日(土)開催)ではこの工事の施工をしてくれた方に工事のノウハウを話して頂く予定です。午後からの現地見学ではこの水路をご案内させていただきます。



中州と魚道



水路

### 花口 光氏

1951年生まれ。岡山市出身。会社勤務後、農業に従事。山南ホタルの里連絡協議会会計。岡山の自然を守る会会長。(財)おかやま環境ネットワーク理事。